



AJU 愛実

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家/愛実友だちの家/紙風船)

第14号 会報

定価:一部50円

理事長 島しづ子より	P1
事務局のページ	P2
愛実友だちの家のページ	P3~4
大地の家のページ	P5~6
紙風船のページ	P7~10
「ナラティヴアプローチ」/南 寿樹	P11
寄付者名簿	P12
定例会報告	P13
小窓から	P14



紙風船
「イエローレシートキャンペーン」



大地の家
「水族館へお出かけ」



愛実友だちの家
「プールで水遊び」

理念と現実

島 しづ子

みなさま いつも応援をありがとうございます。

お元気で秋をお過ごしください。

愛実の会では年に数回の定例会が開かれ、現在の課題や将来の課題について話し合います。今年の3月に理念を新しく確定しパンフレットに載せました。そこには4項の目標が掲げられています。

- 1、個性の尊重 お互いの個性を尊重し、助け合い、共に成長する場をつくる。
- 2、コミュニケーションの重視 相互に信頼しあえる人間関係を築くためにコミュニケーションを大切にす。
- 3、メンバーの生活支援 メンバーの必要に応じて、社会資源を活用しながら、一生涯支えていくことを目指す。
- 4、地域とのかかわり 地域に根ざすために、出会いを大切にし、開かれた場をつくる。

以前の目標は

- 1、メンバー（利用者）の自由と声を尊重し、尊厳を侵さないように支えること。
- 2、メンバーの存在からの語りかけに耳を澄まし、その声を聴きながら働くこと。
- 3、アシスタントは互いの個性を重んじ、それぞれの成長に期待しながら働くこと。
- 4、障がい者の地域生活に必要なことは先見的に担っていくこと。 でした。

この思いを一言で説明するときに「メンバーを大切に」「アシスタントを大切に」と言ってきました。いつも「親亡き後のメンバーの生活」への不安がありました。親たちが自分の子どもを大切に育ててきたように、後に続く人もメンバーを大切にしてくれ、社会もそれを可能にする仕組みを作ってくれたら、安心して死ねるのではないかな？

素人集団がこつこつ積み上げてきたものは、一緒に生きて、社会を変えていく流れづくりだったと思います。現実には厳しく、親が安心して死ねる社会はまだまだです。それでも日々の営みが営々と積み重ねられ、一緒に過ごす場所が与えられ、おいしい食事を共にし、一緒に働くアシスタントがいて、メンバーたちの笑顔があふれています。ありがたいです。

この「大切に」ということですが、実は困難なことです。メンバーもアシスタントも個性的です。また、かなり切羽詰った関係を日々生きていますから、袂を着る余裕がありません。メンバーとも表面的な付き合いでは終わりません。必然的に各自の素がそこにあらわれ、個性が光るのではないのでしょうか。そういう中で、互いの個性を尊重する！時には許せないような（笑）個性だってあります。私たちは自分の考えによって振舞い、他者が望んでいるであろう、と想像して行動します。しかし、自分のやり方はほかの人には不適当だったり、この想像は見当違いだったりします。「個性を尊重し、お互いを大切にする、」ということはかなり意志的な営みを必要とします。それは自分が変わる可能性を受け入れることだと思います。自分の考え方、やり方を絶対化しないで、相手のやり方に目を凝らし、考え、相互に変わっていくという営みです。話づらい相手であればこそ、話してみる。価値観や生き方が違う相手こそ、相手に耳を傾けてみる必要があります。私自身、まったく立場の違う人に話す時、神経質になり、声が出にくくなります。多分恐怖でしょう。この年になっても、意見の違う人と同席し、意見を交し合うことが苦手です。意見が違っていても決して「攻撃しない人」とは安心して話せます。このことを思うとき、自分の弱さを受け入れて相手に対したなら、もっと相互に助け合って成長していけるのかなあ、と思います。

この間、ある人と組織形成について話しました。意見が違いました。私は「心の片隅にとどめてくれればよいけれど」と話し、今私の中には彼女の意見がこだましています。違ったやり方を語り合うということは互いに心の中にその意見が留まり、影響されあうことだと改めて思います。

日々労苦する方々へ感謝と共に送る言葉

涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる。詩篇 126 編 5 節

時間を守る、ということ

中森 由哉

皆さんは、例えば1分で自己紹介をして下さい、と頼まれたらどのようにお感じになるでしょうか。1分あれば充分と思う方、言いたい事がたくさんあってもっと時間が欲しいと思う方、両者いらっしゃると思います。もっと時間が欲しいと思う場合、時間オーバーしてもまあいいじゃないかとお考えの方、いや1分というなら1分でやるのが良いとお考えの方両者いらっしゃると思います。私個人としては1分という時間設定ならばやはり1分で、という考え方です。中には伝えたいことが多くその熱意がほとぼりして決められた時間オーバーして話し続ける場面を見たことがあります、話をしている本人は一生懸命なのに聞いている方は聞くことに集中できなくなり、ともしれば早く終わらないかな、と思いながらいる、ということが結構あるように思います（もちろん全てとは思いませんが）。もちろん決められた時間に言いたいことをきちっと伝えるということは簡単でない場合があるように思います。そのためにポイントをしっかり考え言葉を選ぶ必要もあると思います。しかしながらそうして決められた時間で本当に伝えたいことを簡潔にきっちり伝えることで聞く方も最初から最後まで集中して聞けるし、確実に聞いた人が内容を把握できるように思います。といいつつも私自身それがどこまで出来ているか心許ないのですが、まずは自分自身心がけたいと思っています。

◆歯科検診の実施

先日、愛実の会では歯科検診を実施しました。歯科医師、歯科衛生士の方がそれぞれ3名ずつ施設を訪問して下さり、VTRによる説明を受けた後、各デイに分かれて、一人ずつ検診をおこなっていただきました。普段なかなか検診にいけないメンバーなどもいて、とても助かりました。一人ひとりの口腔ケアの指導もしていただき、今後のケアの参考になりました。



◆防災訓練の実施



今回は火災に備えての訓練となりました。火災通報装置の取り扱いや、擬似消化器による消火訓練を行いました。火災や地震等災害に備えて、対応できる心構えが必要ですね。



愛実友だちの家のページ

(P3~4)

新しい場所に移転して半年近くが経ちました。

メンバーはすっかり木場に慣れ、毎日のびやかに過ごしています。

今回は夏ならではの活動の様子と、

防災訓練の様子をご紹介したいと思います。



夏といえばプール！！

今までは大地の家、愛実の家それぞれで楽しんでいましたが、今年は広いテラスで一緒に遊べるとあってメンバーも嬉しそうでした。

プールは3つ用意し、温浴タイプ、温水タイプ、冷水タイプとそれぞれメンバーの体調に合わせて入ってもらえるようにしました。

連日の猛暑に、一番人気は冷水か温水かと思いきや、意外にもみんな温浴が好み。

まるで露天風呂気分でいつまでも浸かっていたいような感じでした。



お次は夏祭りの様子です。

大地の家をお祭り会場にしてもらい、女性メンバーは浴衣に着替えて気分を盛り上げました。

風船ヨーヨー釣りに射的、独楽やめんこなどの昔遊び、魚釣りにたこ焼き屋台など本格的なコーナーがそろい、BGMもお祭り気分になれるものにしてあったので、大地の部屋に一步入るとそこが本当のお祭り会場のような感じでした。

紙風船のメンバーも招き、皆思い思いにお祭りを楽しみ、夏の思い出として心に刻んでいました。





続いて、9/1の防災訓練の様子をご紹介します。

毎年この時期は防災訓練を行うことにしており、今年も昨年に引き続き名古屋市港区にある防災センターにお邪魔してきました。

こちらは2階建ての施設で、1階に地震体験装置や消防車、防火服などの展示、防災や救急に関するQ&Aやクイズが楽しめるコンピュータが設置してあり、2階には伊勢湾台風や東海豪雨などの展示、体験コーナーがあります。

さてこの日は、地震の際の避難ポイントについて説明を受けた後、いざ震度7の地震体験へ。

メンバーの多くが車椅子の生活なので、地震の際は車椅子が倒れないよう保護することも大切だと教えてもらいました。また、車椅子から降りていてもすぐに安全な場所に行けない場合には、とにかくまず頭を保護することが大切だとも教わり、実践してみました。実際の揺れはとても激しく、物が壊れる音などにおっかなびっくりで、訓練だとわかっているにもかかわらず怖くなるほど。本当に大地震が来た時に慌てないように、日ごろから心構えをしておくことの大切さを痛感しました。

その後、2階に上がり伊勢湾台風被害の3D映像を観たり、火災時の避難ポイントの説明を受け、煙体験をしたりと大変有意義な訓練となりました。

避難用具とは別に、普段からホイッスル、ライトを携帯していると安心だとも教えてもらいましたよ。体験コースは1時間程度ですが、とても勉強になり良い心構えができたと思います。

後日、3部署合同で防火訓練も実施。避難設備の説明を受け、消火活動の訓練も経験しました。

実際火事が起きた時はメンバーの避難が優先ですがめったにない経験にメンバーは嬉しそうでした。

日々の活動をTwitterで発信中！！

http://twitter.com/ami_tomo



大地の家のページ

(P5~6)

水族館へお出かけ



夏の恒例となった名古屋港水族館に今年もお出かけしました♪あいにくその日の天気予報は雨…。怪しいモクモク雲の中、晴れを祈りつつ水族館に向けて出発しました。

木場町に移転したため名古屋港までは車であっという間。以前はイルカショーが始まるころに慌てて会場に入っていたのですが、今回は余裕を持っての到着となり、ショーを最初から楽しむことが出来ました。



一年ぶりに見るかわいいイルカにメンバーたちの目は釘づけ。ニコニコ顔や驚き顔など、反応はさまざまでしたが、どのメンバーもじっとショーに見入っていました。去年とは微妙にイルカの芸の内容も違っていたため、新鮮な気分でショーを楽しむことが出来ました。



ショーの後は少し館内を散策。等身大の大きなシャチの模型の前で記念撮影も行いました。少し緊張気味だったメンバーも、水族館職員の方の「シャッチーズ！」という掛け声に素敵な笑顔がこぼれました(^▽^)

短い時間でしたが、久しぶりの水族館を満喫しました。



その後は雨が降らないうちにJETTYに移動して早めの昼食。

ラーメン、カレー、チャーハンなどメンバーそれぞれが自分の食べたい物を選んで召し上がり、満足気な表情♪

帰ってきてからも、「来年はシャチを見ようね！」などと盛り上がり、すでに次回のお出かけを楽しみにしているメンバー&アシスタントでした。



大地の絵



大地の家に素敵な絵画が届きました（^^*）
♪この一木 なんの木♪…をモチーフに大地の家のイメージでこの絵を描いてくださったのは竹内 保さん。あるメンバーのお母さんからの紹介で、大地の家のために絵を描いてくれました。

色鮮やかに描かれた広大な大地と、しっかり根付いた木が印象的なこの絵は、殺風景だった大地の家の壁を華やかに彩ってくれています。会報では白黒でし



かお見せできないのが残念…！大地の家のブログにはカラーの写真を載せていますので、是非ご覧ください♪

夏を楽しもう♪

とって暑かった今年の夏ですが、幸い大地の家のメンバーたちは大きく体調を崩すこともなく、みなさん元気いっぱい過ごされました。

猛暑日が続いたため散歩などの外出の機会は減ってしまいましたが、その分「プチ夏祭り」や「スイカ割り」など、室内でも楽しめるような企画に積極的に取り組みました♪

創作活動では暑中見舞いやうちわ、ペットボトルで作るミニ水族館など、夏らしさが味わえる作品をたくさん製作。

また、テラスに出て流しそうめんをしたり、ビニールプールで遊んだり…と、大地の家なりの夏をめいっぱい楽しみました (>▽<)

これからも季節感を大切にしたい行事や活動に取り組んでいきたいと思っております☆



日々の活動の様子など随時更新中です♪
大地の家のブログ <http://ameblo.jp/daichi-no-ie/>

紙風船のページ (P7~10)

今年の夏は本当にきびしい暑さでしたね。皆さまお元気でお過ごしですか？紙風船では暑い夏もいろんな方々と交流する機会を設けることができましたのでご紹介します！

施設見学

社会福祉法人さふらん会 ケアホームシャローム「花塚ホーム」



4月にできたばかりの新しいケアホームを見学させていただきました。施設内はとてもきれいで各居室も広くスペースがとってあり、車椅子でも動けるようバリアフリー化もされていました。

いろいろと質問もさせていただき生活している方の様子などお話をゆっくり聞かせていただくことができました。そして、ケアホームで暮らしている方々は、世話人さんをはじめ

支援員、ヘルパーさんなどたくさんの方が関わることにより、安心した生活を送る事が出来ているという事をお話しを聞く中で実感しました。

今回みんなで見学に行き、それぞれが将来の生活を自分で選択し考えていく事の大切さを改めて学ぶ機会となりました。

社会福祉法人さふらん会 「ヨナワールド」

再び、さふらん会の皆さまにお世話になりました。

陶芸やろうそくづくり、カフェなど様々な取り組みをされているヨナワールドさんを見学させていただきました。

今回は、二つのグループに分かれ、作業の様子を見せていただいたり、カフェでおいしいコーヒーをいただいたり実際にメンバーの方のお仕事の様子を拝見させていただきました。

施設の中は、いたるところにメンバーの方の芸術作品が飾られていて、本当にたくさんのおアートでいっぱいでした。また、それぞれの場所によって、いろんな作業内容があり充実しているなあと感じました。

そして何より、一人ひとりの個性を生かしながら、自分にあったペースで役割をもち、楽しそうにお仕事をしている姿がとても印象的でした。



ヨナワールドさんには、たくさんかわいいお人形が飾ってありました。

毎月第4土曜日は月一会を行っています。たくさんの方に参加していただける会にしていきたいです。是非みなさんも遊びに来てくださいね！
それでは7月、8月の月一会をご紹介します☆

7月☆音楽交流会

今回のテーマは「音楽を楽しもう！」
音楽サークル・ドラむすで活動している神田さん夫妻（ダルセーニョ）&松田さんがゲストとしてきてくださいました。

歌をきいたり、大きな笛のような楽器で「いとしのエリー」を演奏していただいたり、またメンバーたちもギターやハンドベルなど普段あまり触れることのなかった楽器の音色を実際にならして楽しむ事が出来ました。

また私たちも、人形劇「モコちゃん」のテーマソングにふりをつけ、当日キーボードで演奏をしていただきながら、一緒に踊りを披露しました。初めての出会いでしたが、音楽を通してみんなが笑顔となり交流することができました。とても楽しい時間を過ごすことができました。



8月☆人形劇交流

ゲストに元気クラブの皆さんと、1人で朗読劇を行っている小林沙也佳さんが来て下さいました。エプロンシアターやキリ絵を使った「ぶんぶくちゃがま」の朗読劇を観賞しました。

その後、紙風船からはメンバー有志によるハンドベルとキーボードの演奏「世界に一つだけの花」を披露しました。私たちにとっては、初めての挑戦でうまくいくかどうか…。緊張感の中で曲がはじまりました。つなわたりのように、みんなで音と音をつなぎ、何とか最後まで無事に演奏ができ、大きな拍手をもらいました。メンバーの表情もみんな満足感に満ち溢れていて、とてもいい演奏でした。

今回の人形劇交流会として月一会を企画し、お互いの表現を見たり、思いを話したりする中で、お互いにとてもいい刺激があり、紙風船にとっても、輪がまた一つ大きくなったのかなと喜んでいきます。

あとがき

9月から3作品の立ち稽古が始まりました。

12月の発表にむけて練習していきます。

暑さに負けず、みんな頑張っています。応援してください。メンバー鈴木重利

<協力者の思い>

「交流を通して」

ボランティア 鈴木 絢子

こんにちは。ミシンこと同朋大学 1 年鈴木絢子です。

私が初めて紙風船に行った時、元々人見知りしやすい性格なのですが、皆さんが温かく迎え、快く受け入れてくれたので、私も明るく振る舞うことができたのだと思います。

初めて人形劇に参加した時は、自分の出番がいつだったかと不安になりました。何回見ても新鮮に映り話の内容を理解しきれていなかったなので、今度は自信を持ってやれるようにしたいです。

これからも楽しく、参加させて頂ければと思います。

【公演だよ！】

第119回 2010年8月8日(日)

全国障害者問題研究会あいち大会 文化活動大交流会にて

主催：全障研あいち大会実行委員会

日本福祉大学美浜キャンパスにて 13:30より 「モコちゃん」

今回の公演は、文化活動大交流会という事もあり、私たち以外にも人形劇団をはじめバンドのグループや演劇など様々なグループと一緒に参加する形となりました。いろいろな表現の仕方があること、文化活動を通して会場の気持ちが一つになれる。そんなことを感じることでできた公演でした。

<公演のお知らせ>

2010年12月4日(土) 新作人形劇発表会

作品 「カメさんのありがとう」「ポンタとたっくん」
「ぼくたちにできること」

場所：NPO法人愛実の会 紙風船テイルームにて

詳細は未定

(詳細につきましては今後ホームページにて掲載して
いきます。または直接紙風船までお問い合わせください。)



夢づくり基金へのご協力をお願いいたします。



前回の会報より、紙風船夢づくりへのご協力の呼びかけをさせていただいています。いよいよ9月より本格的に立ち稽古に入りました。12月の発表会に向けて、これからますます急ピッチで稽古に取り組んでいくこととなります。

前回もお伝えした人形劇の資金に関しては、NHK文化厚生事業団様より支援金をいただくことができたり、皆さまからの夢づくりへのご協力もあり、当初目標の150万の予算が残り約50万円程になりました。本当にありがとうございます。

しかし、これからまだまだ宣伝活動や、人形制作に関しても経費がかかる事が予想されますので、引き続き夢づくりへの協力をお願いをさせていただきます。

多くの方に支えられていることを感謝しながら、12月の初舞台に向けて練習を頑張っていますので、応援よろしくお願いたします。

口座番号 00850-6-187490

口座名称 特定非営利活動法人 愛実の会

※備考欄に「夢づくり基金」とご明記ください。

ナラティブアプローチ

南 寿樹

ナラティブ (narrative) という言葉に出会った。「物語」を意味するこの言葉は、最近では医療や看護、社会福祉の分野でのキーワードになっているという。「続 働く理由」(戸田智弘)「自分は、いままで、何に悩み、何に歓んできたのか。何に傷つき、何に感動してきたのか。誰と出会い、誰と別れてきたのか。何を手に入れ、何を失ってきたのか」

誰もがその人だけのかけがえのない経験の物語を持っている。自分の「キャリア」(どう生きていくか)を考えてみたいとき、この物語を鮮明にして「自分らしさ」を発見する手法をナラティブアプローチと呼ぶそうである。そのときのキーワードは「人とのつながり」である。

私は私なりに、この夏の「全国障害者問題研究会全国大会」の取り組みで実感した。この研究会とは30年近くの付き合いで、「自主的な活動」の分科会で基調報告をしたりまとめたりする世話人の立場になっている。今年は愛知での開催ということで「机上の発表ではなく、互いにライブで発表し合うことで感動を共感し合いたい」という思いで「文化活動大交流会」を企画した。それは無意識に人生を意識したようだ。(この先現職中で、愛知が開催県になることはない。この人生においてこんな機会は二度とないだろう)という思いが燃え上がったのだ。

さて、本番の前日、渋滞で宮城から16時間かけて夜の10時に到着したサークル「ふれんど」の仲間と固く握手した時、「居心地の良い自分」の感覚に包まれた。顧問の佐藤郁子さんとは14年来の付き合いで、会うたびにエネルギーをもらっている。夜食をともにするとき、まっすぐに自分を見て「今度は児童デイサービスの事業所をやろうと思っている」と熱く語ってくれた。この時「自分の人生は、この人たちに意味づけられているのでは」という意識にとらわれた。そして翌日の本番で東京、三重、愛知…の仲間の発表を見てその意識はさらに強くなった。次にまるでフラッシュバックのように出会った人々が次々と浮かんできた。—不思議な感覚—そうだとその人たちとの出会いが今の自分をつくってくれているんだ。どこか遠い目標と重くとらえていた「自己実現」の答は自分の物語とまだ見えないその延長にすぎないんだ。

学生時代、閉館間近の温水プールに「30分あれば1km近く泳げるよ」と誘ってきた同級生の妙ちゃんは、今の自分そのものだ。「うだうだ言うより、今からホームセンターに行って材料買ってくるわ」「これ、明日までに作ってくるね」という初代あそび座の教員仲間の大橋・吉村は、今の自分の行動力を作っている。「あなたのお母さんは、自分が苦しいときでも同僚のことを先に考えてくれたんだよ」と亡き母の通夜で伝えてくれた人の言葉は、今の自分の活動の基本になっている。そして愛実の会の仲間との出会いは本当に好きな自分を作ってくれている。

自分の顔は自分では見えないように、人は「他者とかかわり、何らかの反応をもらうこと」で自分を認識する。人とかかわる経験の点と点を結びつけていく作業によって自分の生き方がくっきりと見えてくる。しかしその点が未来のある時点につながるための条件は、鮮明な点を打っていくこと。つまり出会う人との経験をどこまでも大切にすることではないだろうか！

「湖に浮かべたボートのように 人は後ろ向きに未来に入っていく

目に映るのは過去の風景ばかり 明日の景色は誰も知らない」ヴァレリー (詩人)

◆賛助会費

生田 庫央	生田 静代	江口 信子	近藤 洋	近藤トクエ	山本 茂一	伊藤 清香
阿部 健二	牧野 眞保	藤掛 朔生	佃 欽之助	佃 ミチエ	浅野 幸治	見木 靖美
西川 道子	戸田 伊助	臼田 治子	桐村 剛	渡邊 綾子	藤原 郁子	山下 有
山下 良子	杉本 誠	村上 裕子	風間 文子	田中 綏子	都築 典子	中澤 實郎
早川 教示	竹内 淳子	河内 常男	河内 宣子	宇田ゆき子	神野ふくへ	山崎眞由美
河村比佐子	細川美代子	石田伊志子	石崎亮史朗	榎本久美江	伊藤てい子	崔 浅子
今枝ミサ子	河合みち子					

◆紙風船夢づくり

中森 由哉	中森 照子	松村 和枝	関島 秀樹	成田 秀子	南 寿樹	田中 博史
石井 昌也	伊藤 友子	鈴木 好美	鈴木 福枝	伊藤 純一	宮原 祐子	吉澤 道子
林 昭碩	林 恵子	戸田 真二	村嶋 潔	浅井 利博	浅井 春男	戸田 伊助
永井 猛	瀬口 昭代	山田 光廣	山口 安男	山口 敏枝	梶野 和恵	浜嶋 一史
渡邊 綾子	島 しづ子	山下 有	山下 良子	酒井 淳子	早川 教示	竹内 淳子
木村 淑江	深澤 春男	神野ふくへ	川口いづみ	和久井由利恵	石崎亮史朗	
岩田太万亀	名古屋樟ライオンズクラブ	後藤宣彦		細川美代子	板倉美恵子	

◆寄付・その他

中森 由哉	中森 照子	坂口 良彬	加藤 久雄	酒井久仁子	浅井 志朗	浅井 真希
水野 享好	榎原 ちゑ	伊藤 友子	中川 鋪子	水野 幸子	島 一郎	足立 克己
川口 仁志	岩崎 武男	奥山 喜正	細川美代子	早川久美子	柏木 実	村上 裕子
大藪 礼子	崔 浅子	吉田 瑩子	鶴崎 祥子	市原信太郎	市原 誉子	市原 麦穂
山村ミヨコ	瀬口 昭代	清水 義雄	渡邊 綾子	鈴置 幸代	宇野 伸一	島 しづ子
迫田 康洋	迫田満寿枝	榎原喜代子	中本 睦美	中本 秀行	野村眞理子	竹内 淳子
比企 敦子	佐野 都吾	佐野 美穂	坂下教会	土屋美恵子	京都みぎわキリスト教会	

◆土地建物

石崎亮史朗 山崎眞由美 細川美代子 八木隆太郎 杉山 清美 早川 教示 竹内 淳子

◆移転改装費 江口 信子 野崎 弘一 野崎 典子 佐藤 全弘 水野 享好

◆NPO 資金 竹内 淳子

ご協力ありがとうございました。

任意団体 「障害者・友だちの家・愛実」 寄付者名

感謝いたします

毎日、熱中症の注意が訴えられていた夏も終わり、秋も深まりました。虫たちの声もひそひそ鳴きに変りました。夏の疲れが出ませんように、くれぐれもご自愛くださいますように、お祈りいたします。

「寄付金個人・教会」 川田純枝 松下智恵子 青本光子 大淵哲也 大淵真喜子

「賛助会費個人」 吉谷尚之 (複数回) 安藤眞知子

「土地建物基金個人」 岩田太万亀 (複数回)

尚、今回の報告は10年6月1日から9月5日までいただいた分の報告です。長村

2010 年度第 1 回定例会報告

中森 由哉

先般、7月25日(土)17時半~19時半に今年度初の定例会を開催致しました。

昨年度は土地建物移転に力を入れ、定例会でも移転については相当力を入れて取り組んだ課題でした。今年度は無事移転が成り、新しい場所での初めての定例会となりました。昨年度も移転の他に、メンバーの将来の生活・アシスタントへの保障・法人の将来構想等とても重要なテーマを協議してきました。

今回はその中でメンバーの生活をいかにサポートしていくか、をメインテーマに開催致しました。今すぐのニーズもあれば、長期的に見ていく必要のある内容もあるのですが、具体的なことも含めて様々な意見が挙がりました。まずはメンバーの地域生活を考える際に困っていることや不安なことを出し合い、今後の取り組みにつなげていこうという観点からの話し合いとなりました。

緊急時どうすればよいか、受け皿はあるのか・外出支援がどこまで出来るのか・年齢と共に障がいにより重度化する不安等様々な意見が出ました。身体的なこと、経済的なこと、制度的なこと、等多岐にわたる内容でした。

当日は3つのグループに分かれて意見を出し合い、最後に全員集合して各グループごとに出た意見を発表する、という流れをとりました。様々な意見の中で、特に今すぐのこととして気掛かりなものは、家族が病気や急用等の時にホームヘルプやショートステイでどこまでサポートが可能かという意見でした。

将来のビジョンを描いていくことの大切さと同時に、今気掛かりなことに対してどう向き合っていくのかも大切であると感じます。そのことが解決しないと、また何らかの見通しがないと、長期的な見通しを考えるエネルギーもなかなか沸いてくるものではありません。実際、ホームヘルプを愛実の会では実施していますが、「サービスが必要な方はドンと来い」という状況とは程遠くあります。しかし何とか少しでもメンバーやご家族の安心につながれば、との願いを持ち続け今後も事業展開を図りたいと思っております。

今回は困っていることや不安なことを出し合う、という方向性で協議を進めました。次回以降は、それらについて具体的にどう考えていけるか協議を進めたいと思っております。

その際、ニーズに対して現在の制度の中で可能なこと、困難なことの両方があると思います。もちろん活用できる制度は大いに活用するのが良いと思います。しかし制度の中で実施が困難なことに対して、法人としてどう取り組んでいくのかを考えていく必要性も出てくるのでは。ケアホームのように制度はあるのですが、重身の方々の利用を考えると人手の面からも採算面からも現実的には困難、というものもあり、今後様々な課題に対して、向き合っていく必要性を感じています。

「小窓から」 9

大野 義徳

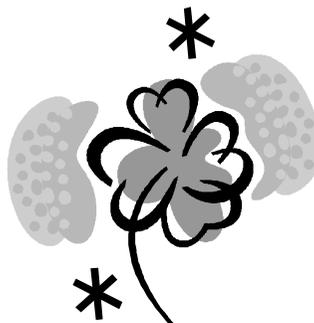
百年に一度だという今夏の暑さはこの名古屋もちろん例外ではなく、外に出ることだけでも、かなりの決心が必要なほどだ。私は自転車で通勤しているが、まるでサウナの中を走るような感じで、それだけで大仕事。もちろん、それで一日の仕事が終わりでは当然ないわけで、デイサービスなどを安全かつ時間通りにこなさなければならない。私にとっても他のアシスタントにとっても、この「仕事」がいわば一日のメインであり、愛実に来ている大きな目的だろう。

さて、メンバーにとっての愛実に来るメインの目的として、何が考えられるだろうか。人形劇の練習、友だちに会うこと、アシスタントと話すこと、散歩をすること、絵を描くこと、外出をすること、あるいはご飯を食べること……。でももっと大切なことを私たちは見落としていないだろうか。

私が病気で自宅療養していた時は、外へ出られないことがつらかったし、メンバーが体調を崩したり入院したりして愛実に来られない時も、空いた車椅子や道具を見ては、寂しい思いにかられるものだ。すでに亡くなったメンバーもおられるが、もう二度と一緒に歌ったり散歩したりできないんだ、と思うととても悲しい。

障がいの重いメンバーにとって、愛実に出て来られるほどに「健康」に「生きて」いる、ということがいかに尊いことか。いつも愛実に来られることは、けっして当たり前ではない。本人やご家族の多くの努力や支えの上に成り立っているものだ。

朝に愛実へ登所することがメンバーの一番の仕事、ということに勤め始めた頃に聞かされた。朝に「おはよう！」と声をかける、この何でもないような時こそがメインなかけがえのない時なんだと改めて思う。



ご寄付をいただきました

☆NHK厚生文化事業団 わかば基金 支援決定のお知らせ☆

地域福祉を支援する事業として取り組まれていたNHK厚生文化事業団「わかば基金」の支援が決定いたしました。70万円の支援金をいただけることになり、紙風船のメンバーが人形をとりつける為のテーブルスタンド、また人形の制作費として大切に活用させていただきます。今回紙風船の人形劇の活動を認めていただけたこと本当にうれしく思います。ありがとうございました。



☆チャリティウォークソン☆

5月に開催された、在日米国商工会議所・名古屋国際学園主催のチャリティウォークソンに今年も愛実の会は参加させていただきました。小雨が降る中多くの方が参加され会場はとても賑わっていました！

そして、去る9月8日贈呈式が行われ、愛実の会へ20万円のご寄付をしていただけることになりました。活動を充実させるための資金として、大切に活用させていただきます。

【所在地・連絡先】 ※4月より変更いたしました。

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

- 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）
- 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホームページ <http://www.aminokai.com>

「NPO愛実の会」ご支援のお願い

郵便振替 座番号 00850-6-187490
座名称 特定非営利活動法人 愛実の会

- ◆ 賛助会員 NPO愛実の会の活動に対しての費用
- ◆ 土地建物取得 将来のNPO土地建物取得費用
- ◆ 紙風船夢づくり 紙風船の人形製作費、公演活動に関する費用

1口1,000円 何口でも結構です。
ご支援していただける項目を振込用紙に記載の上ご協力お願いいたします。

※ 年2回（夏号と冬号）に「振込料金加入者負担」の「払込用紙」を同封させていただいています。ご利用下さい。